

韓国の幼稚園における国家基準としてのテーマ中心型教育

田中 敏明*¹・カン ミンジュン*²・貞方 聖恵*³・松井 尚子*⁴

*¹九州女子短期大学子ども健康学科 807-8586 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1

*²韓国・牧園 (Mokwon) 大学校 302-729 88, Doanbuk-ro, Seo-gu, Daejeon, Korea

*³福岡教育大学大学院 811-4192 福岡県宗像市赤間文教町1-1

*⁴東亜大学人間科学部 751-8503 山口県下関市一の宮学園町2-1

(2017年5月29日受付、2017年7月3日受理)

要 旨

本研究は、韓国の幼稚園の教育課程であるヌリ課程の中心的な方法として用いられているテーマ中心アプローチ型教育についてその内容と方法を概説し、幼児教育が満たすべき条件にもとづいてこの教育方法の有効性と妥当性を検証するものである。韓国の幼稚園におけるテーマ中心型教育は、韓国教育省が刊行した教師用指導書に示された、幼稚園と友達、私と家族、住んでいるところ、健康と安全、動植物と自然、生活道具、私の国、世界のいろいろな国(4・5歳)、交通機関、季節、環境と生活という11の生活テーマと、テーマごとの活動モデルにもとづいて、自由選択活動や集団活動、外遊びを加えながら、それぞれの幼稚園や教師の独自の裁量のもとに展開される。本研究では、「生活道具」を中心にこの教育の内容と方法を紹介する。さらに、韓国のテーマ中心型教育を、「遊びを通した教育」、「ねらいが総合的に達成できる」、「活動の関連性・継続性・発展性がある」などの望ましい幼児教育の条件に照らして、幼児教育方法としての妥当性、有効性について検証した。その結果、大・小集団活動、自由選択活動、外遊びを組み合わせて展開される韓国のテーマ中心型幼稚園教育は、ねらいを総合的に達成する、ねらいにかかわる活動をバランスよく経験できる、活動に継続性・発展性がある、日常生活とのつながりが深く身についた知識や技能、思考力を日常生活に生かすことができるなどの点で幼児教育方法として有効で妥当な方法であることが明らかになった。

キーワード テーマ中心アプローチ型教育 ヌリ課程 生活テーマ 幼稚園教育課程

1. 研究の背景と目的

プロジェクト型教育は、アメリカの教育学者キルパトリックがデューイの経験主義教育理論にもとづいて提唱した、「生徒が計画し現実の生活において達成される目的をもった活動」で、問題解決学習の典型的な様式の1つである。学習者自身の目的意識・課題意識を出発点とし、その活動を遂行する方法を計画し、その計画を実施し、活動中の進歩と最後の結果を

評価するという4つの学習プロセスによって構成される。現在、幼児教育では多様な方法が採用されているが、プロジェクト型教育もいくつかの国で実践されている。その中で、ドイツ(中西:2011、渡邊:2006、2007、2016)やスウェーデン(本山:2016)のプロジェクト教育については日本の研究者による研究が行われている。わが国でも、いくつかの幼稚園や保育所でプロジェクト型教育が取り入れられており、実践事例が角尾(2008)によって示されている。中西、渡邊、本山の研究はドイツやスウェーデンのプロジェクト型教育の理論的背景を中心に考察されたものであり、角尾の著書に紹介されている事例は、いくつかの幼稚園・保育所で展開された事例の中から1事例ずつ取り出したものである。そのため、プロジェクト型の教育は年間を通したもののなのか、他の教育方法と併用するのか、目的を持った活動が年間で何活動ぐらい取り入れられるのか、どのような目的が設定されるのか、それぞれの活動はどのような内容で構成されるのか、教師はどのような役割を果たすのか、それは子どもの年齢によって異なるのかなど、プロジェクト型教育の全体的な姿が明らかでない。

韓国では、従来から自由選択教育やモンテッソーリ教育などいくつかの教育方法を取り入れてきたが、2010年ごろから、プロジェクト型教育を発展させたテーマ中心アプローチ型の教育方法が幼稚園教育の中心的方法として位置づけられ、2012年には3歳児から5歳児までのテーマ別の活動事例やねらい、活動の具体的な展開と教師のかかわりを解説した全36巻からなる「幼稚園教育指導書」が韓国教育省から刊行され、現在ではほとんどすべての国公立幼稚園がこの指導者をもとにして教育を展開している。私立幼稚園の実施率も9割前後に達するという。

そこで、韓国の幼稚園におけるテーマ中心アプローチ型教育を取り上げ、設定されるテーマの数、テーマごとの、活動内容、活動時間、他の教育方法との併用、教師のかかわりなどの特徴を明らかにするとともに、「遊びを通した教育」、「ねらいを総合的に達成する」など望ましい幼児教育の条件に照らして、幼児教育方法としての妥当性、有効性について検証する。

2. 韓国のテーマ中心型幼稚園教育

韓国の幼稚園では、日本と同様に、教育省の定めた幼稚園教育の規定(幼稚園教育課程解説)に基づいて教育を行うことが求められている。規定では、幼稚園教育の目標が、身体運動・健康、言語(コミュニケーション)、人間関係(社会関係)、芸術経験、自然探求の5領域に分けられ、それぞれの領域には3~5個の目標が設定されている。これらの目標は、1. 幼稚園と友達、2. 私と家族、3. 住んでいるところ、4. 健康と安全、5. 動植物と自然、6. 生活道具、7. 私の国、8. 世界のいろいろな国(4・5歳)、9. 交通機関、10. 季節、11. 環境と生活という11の生活テーマにもとづいたクラス全体の大・小集団活動、自由選択(コーナー)活動、外遊びによって総合的に達成される。おおよそ1カ月にひとつの生活テーマを消化するのが標準的な進め方である。いわゆるテーマ設定型のプロジェクト型教育

ということが出来る。11の生活テーマの中から、「6. 生活道具」について、テーマ、小テーマ、主な内容、活動名、活動類型、ヌリ課程の領域との関連について示してみよう（表1）。

表1. 韓国のテーマ中心アプローチ型教育におけるテーマ活動（「生活道具・5歳児」の場合）

| テーマ1：さまざまな生活道具 | | | | |
|-----------------------|--|----------------|----------------|--------------------|
| 小テーマ | 主な内容 | 活動名 | 活動類型 (コーナー) | ヌリ課程の 関連領域 |
| 生活道具を 調べてみよう | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具には、様々な種類と働きがあることがわかる。 目的や場所によって、使用する生活道具に違いがあることがわかる。 生活道具に対して感謝の心を持つ。 | このような道具を使う | 話し合い | 言語 自然探求 |
| | | 道具を見てみよう | 観察 | 自然探求 社会関係 |
| | | パンを作るのは？ | 劇遊び | 自然探求 言語 社会関係 |
| | | 道具の大切さ | 童詩 | 自然探求 言語 |
| | | メガネ | 音楽 | 自然探求 芸術経験 |
| | | 道具を売るお店 | 見学 | 自然探求 社会関係 |
| | | 針仕事 | 数・操作 | 自然探求 |
| 生活道具の 変遷過程を 知ろう | <ul style="list-style-type: none"> 周辺の生活道具の変遷過程がわかる。 生活道具のデザインは、時間の流れによって変わることがわかる。 昔と現在の生活道具の変化を経験する。 | 雨が降る国の心配 | 童話 | 自然探究 言語 |
| | | 昔から今まで | 音楽 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 場所が変わりました | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| | | タル（子どもの名前）の魚とり | 身体 | 自然探究 芸術経験 |
| | | このように変わりました | お話 | 言語 自然探究 |
| | | 昔昔、大昔に | 言語 | 自然探究 言語 |

| | | | | |
|----------------|--|---------------------------|-------|-----------------------|
| 生活道具を有効に活用する | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具は、多様な目的（運動、清掃、料理、美容など）で使用されることがわかる。 生活道具を目的と場所に依じて適切に使用する。 多様な表現のために生活道具を使用する。 生活道具を活用することを楽しむ。 | クッキーを作ろう | 料理 | 自然探究 社会関係 |
| | | 私は美容師になれるよ | 役割遊び | 言語 社会関係 |
| | | ナンタ遊び（鍋などの調理器具を使って音を出す遊び） | 音律 | 自然探究 |
| | | フラフープ遊びをしよう | 外遊び | 身体・健康 |
| | | 祖父の杖 | 童話 | 自然探究 言語 |
| | | きれいに掃除しよう！ | 話し合い | 自然探究 言語 |
| 生活道具を安全に使用する | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具の安全な使用方法がわかる。 家庭生活の道具を安全に使用する。 幼稚園や公共の場所の生活道具を正しく使用する。 生活道具を修理する人に感謝の心を持つ。 | 手袋を作ろう | 美術 | 身体・健康 芸術経験 |
| | | あっ！気をつけて | 話し合い | 身体・健康 言語 |
| | | 気をつけよう | 童詩 | 身体・健康 言語 |
| | | 食卓を作ろう | 身体 | 身体・健康 |
| | | 木で作ろう | 外遊び | 身体・健康 自然探究 |
| テーマ2：生活道具を動かす力 | | | | |
| 生活道具を動かす力がわかる | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具は、さまざまな動力（風、太陽、水）で動くことがわかる。 動力と動作との関係を体験する。 未来のエネルギーについて調べてみる。 | 私は力が出る | 音楽 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 風で動く | 科学 | 自然探求 身体・健康 |
| | | どのように動かそうか | 話し合い | 自然探究 言語 |
| | | エネルギーまちづくり | 積み木遊び | 自然探究 社会関係 |
| | | 私は踊る人形 | 身体 | 自然探究 芸術経験 身体・健康 |

| | | | | |
|------------------------|---|-----------------------|------|--------------------|
| 生活道具は動く力を効率的に使用する | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具によって使用される動力が違ふことがわかる。 さまざまな動力で動かされている生活道具を作動する。 自然の中でエネルギーを得ることができることが分かる。 | 環境にやさしいエネルギーを使用した生活道具 | 話し合い | 自然探究 言語 |
| | | ベビーカーを押してよ | 外遊び | 自然探究 身体・健康 |
| | | アイロン | 童話 | 自然探究 言語 |
| | | ハーモニカをつくる | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| 生活道具で使用されているエネルギーを節約する | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具を動かすエネルギーの重要性についてわかる。 生活道具を動かすエネルギーの節約方法を実践する。 エネルギー節約が私たちの生活に及ぼす影響について理解する。 生活道具を使用する時、エネルギーを節約する習慣を持つ。 | 私はエネルギーを守る | 話し合い | 自然探究 言語 |
| | | さつとさつと！万能博士 | 童話 | 社会関係 言語 |
| | | さつとさつと！万能博士 | 劇遊び | 社会関係 芸術経験 言語 |
| | | お日様の熱でのりを焼こう | 科学 | 自然探究 |
| | | もっと節約することができますよ | 話し合い | 自然探究 芸術経験 言語 |
| | | 大切な電気 | 音楽 | 言語 芸術経験 |
| テーマ3：生活道具としてのメディア | | | | |
| 生活の中でのメディアを調べてみる | <ul style="list-style-type: none"> 私たちの生活の周辺で使用されているメディアの種類と役割がわかる。 メディアの変化過程がわかる。 生活に必要なメディアを使ってみる。 | 生活中的メディア | 話し合い | 自然探究 言語 |
| | | 宝物を探せ！ | 外遊び | 自然探究 社会関係 |
| | | 私たちを助けてくれる人 | 童詩 | 自然探究 言語 |
| | | メディアセンターに行こう | 見学 | 自然探究 社会関係 |
| | | 私は写真作家 | 科学 | 自然探究 |
| | | どんな話を作ろうか | 言語 | 言語 芸術経験 |

| | | | | |
|-------------------|--|--------------------|------|--------------------|
| メディアが生活に与える良さがわかる | <ul style="list-style-type: none"> メディアが私たちの生活に与える利便性がわかる。 メディアを通して多様な世界に接して楽しむ。 メディアの大切さを感じる。 | 私に必要な情報を探そう | 科学 | 自然探究 |
| | | コンピューターも予防接種を打たれる | 話し合い | 自然探究 社会関係 言語 |
| | | メディアアーティスト | 童話 | 社会関係 言語 |
| | | 私も芸術家! | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| | | メディアの友人 | 話し合い | 自然探究 言語 |
| メディアを有効に利用する | <ul style="list-style-type: none"> さまざまなメディアの使用方法がわかる。 さまざまな目的のために、メディアを活用する。 メディア活用を楽しむ。 新しい情報を検索するためにメディアを活用する。 | コンピューターの国に幼稚園があります | 話し合い | 自然探究 社会関係 |
| | | 私たちの家のニュースを知らせよう | 美術 | 社会関係 芸術経験 |
| | | コンピューター準備運動 | 身体 | 身体・健康 |
| | | 私たちがつくった童話 | 劇遊び | 自然探究 芸術経験 |
| | | 映画館遊び | 役割遊び | 身体・健康 言語 |
| | | インターネットの国 | 音楽 | 自然探究 芸術経験 |
| メディアを正しく使用する | <ul style="list-style-type: none"> メディアの正しい使い方がわかる。 メディアを活用する時、個人情報をもやみに流出してはいけないことを知る。 メディアの有用性と有害性について理解する。 メディアを使う時のマナーを守る。 | 鬼とコンピューター | 童話 | 身体・健康 言語 |
| | | メディアチャンピオン | ゲーム | 身体・健康 言語 |
| | | 個人情報は大事です | 童話 | 身体・健康 言語 |
| | | 正しく使用しよう | 音楽 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 幸せなメディアの世界 | 数・操作 | 社会関係 |

| テーマ4：未来の生活道具 | | | | |
|--------------|--|-----------------|-------|---------------|
| 生活道具の発明を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具を発明した人を知る。 自然の中で見つけた発明を知る。 生活道具を発明した人に感謝の気持ちをも持つ。 | 自分の発明ノート | 言語 | 自然探究 言語 |
| | | 人々はなぜ発明をするのか | 話し合い | 自然探究 言語 |
| | | 私は考え中です | 童話 | 言語 自然探究 |
| | | 体で表現する発明品 | ゲーム | 自然探究 身体・健康 |
| 生活道具の改善点を調べる | <ul style="list-style-type: none"> 生活道具の中で直すべき点がある道具を見つける。 生活道具の便利さと不便さを比較してみる。 不便な点がある生活道具を改良する。 | 私たちのためのリモコン | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 野菜脱水機 | 料理 | 身体・健康 自然探究 |
| | | シャボン玉枠の改良 | 外遊び | 自然探究・ 芸術経験 |
| 必要な生活道具を発明する | <ul style="list-style-type: none"> 必要な生活道具をつくってみる。 生活道具を新たに設計する経験をする。 未来の先端機器について調べてみる。 | 必要な生活道具を発明してみよう | 積み木遊び | 自然探究 芸術経験 |
| | | 「特許」とは何かかな？ | 話し合い | 社会関係 言語 |
| | | ガラスびんフルートを演奏しよう | 音律 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 未来の環境に優しい再生紙 | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| 新しい生活道具はこちら | <ul style="list-style-type: none"> 新しい生活道具に興味を持つ。 ロボットの種類と活用について知る。 ロボットに親近感を持つ。 | 環境に配慮した浄水器 | 科学 | 自然探究 言語 |
| | | ロボットになってみよう | 身体 | 身体・健康 自然探究 |
| | | ロボットデザイナー | 美術 | 自然探究 芸術経験 |
| | | 未来の外遊び場 | 外遊び | 自然探究 芸術経験 |

表1は、生活テーマ「生活道具」の5歳児のサブテーマ、小テーマ、主な内容、活動名、活動類型、ヌリ課程の領域との関連について示したものである。この表からわかるように、11テーマからなるそれぞれの生活テーマはいくつかのテーマに分けられる。例示した「生活道具」の場合は、テーマとして、「さまざまな生活道具」、「生活道具を動かす力」、「生活道具としてのメディア」、「未来の生活道具」の4つがある。さらに、テーマには3～5個の小テーマが設定され、小テーマごとに3～4個の主な内容と3～6個の具体的な活動が配置されている。大体1週間に1つのサブテーマを消化しながら、1ヶ月前後かけて1つの生活

テーマが経験される。

活動は、大集団活動（クラス全体の活動）、小集団活動、自由選択（コーナー）活動、外遊びの中で展開され、生活テーマごとの目標は総合的に達成される。教師は、このことを念頭に置いて、「幼稚園教育課程解説」に例示された活動の中から適切な活動を選択し、あるいは独自に考案した活動を取り入れながら、年間教育計画、月の教育計画、週の教育計画を立案する。それぞれの活動の特色は次の通りである。

自由選択（コーナー）活動

登園後、子どもたちは最初に自由選択活動に取り組む。登園するとその日選択するコーナーを決めて1週間の活動表に記入したのちに、選択したコーナーで活動する。活動後は、活動の満足度について自己評価し、活動表に記入する。教室は、幼稚園によって多少異なるが、おおむね7つ程度のコーナー（国の指針では積み木遊び、役割遊び、言語、数・操作、科学、美術、音律）に分割され、それぞれのコーナーにはその時々テーマに関連した教材が配備され、活動が展開される。表3に示した生活テーマ「生活道具」の週間教育計画（多様な生活道具）からわかるように、次のような活動例がある。

積み木コーナー：ブロックでいろいろな生活道具を作ろう、おもちゃ修理

役割遊びコーナー：鏡を使って遊ぶ、美容師ごっこ

言語コーナー：生活道具本づくり、大昔の道具（絵本）

数・操作コーナー：針仕事、昔の道具といまの道具を使ってみよう

科学コーナー：道具の観察、ラジオの部品観察

美術コーナー：生活道具がある名画鑑賞

音律コーナー：音楽鑑賞、音遊び

表2. 韓国幼稚園の1日の流れ

| | |
|-------------|------------------|
| 9:00 | 登園 |
| 9:00-10:30 | 自由選択活動(計画・実行・評価) |
| 10:30-10:50 | 大集団活動I |
| 11:10-11:50 | 大集団活動II |
| 11:50-12:50 | 昼食 |
| 12:50-13:30 | 外遊び |
| 13:30-13:50 | 大集団活動III |
| 14:00 | 評価および降園 |

大集団活動 I

出席点呼ののち、クラス全体で詩、絵本読みや歌、ゲームなどの活動を行う。絵本や歌は、その時のテーマに関連したものが選択される。標準的には、午前10時半から10時50分までとされている。

大集団活動 II（テーマ活動）

韓国教育省（2012）刊行の「幼稚園教育指導書」に示されている11の生活テーマとテーマごとの活動例をもとに活動が展開される。標準的には、午前11時10分から11時50分までの40分間である。週間教育計画例を見ても、毎日何らかのテーマで話し合いが行われるほか、

身体活動、科学活動、製作活動、数活動、捜査活動、絵や音楽の鑑賞などがクラス全体で行われる。

外遊び

標準的には昼食後12時50分から13時30分まで行われる活動である。ここでは、体操などの体育的活動のほか、テーマに関連した探索活動や戸外に適した活動、例えばサブテーマ「様々な生活道具」であればフラフープ遊びや木をつかった制作活動、シャボン玉遊びなどが行われる。

大集団活動Ⅲ：降園前の活動であり、クラス全体で詩、絵本読みや歌、ゲームなどのうち大集団活動Ⅰで行わなかった活動を行う。

表2は韓国幼稚園の1日の流れを示している。9時の登園後14時の降園までの間に、自由選択活動、朝の会を含む大集団活動Ⅰ、その日のクラス全体のメイン活動である大集団活動Ⅱと続き、昼食をはさんで戸外遊びがおこなわれ、帰りの会を含む大集団活動Ⅲの順に展開されるのが一般的である。

表3は生活テーマ「生活道具」の週間教育計画（多様な生活道具）を示したものである。

3. 活動の内容および領域との関連

韓国のプロジェクト型教育の特色は、一つの生活テーマの中で多様な活動が展開されることである。表4は、「生活道具」における活動と頻度を示したものである。この表からわかるように、絵本読みと童話・童詩の語り聞かせの13回を筆頭に、話し合い活動、歌う、楽器を演奏するなどの音楽活動、製作・造形活動、身体活動など一つのテーマのもとに多くの活動を経験する。園外での社会見学も2回行われる。ゲームやごっこ、話作り、劇遊び、積み木、数・操作、探求、調理などは活動数が少ないが、これは「生活道具」というテーマにおける活動であり、テーマによって必然的にこのような偏りが出てくる。11テーマ全体で見れば、活動間のバランスが取れてくるものと思われる。日本の幼稚園でもこれらの活動が行われているが、多くの場合、それぞれの活動が関連のないまま、いわば日替わりメニュー的に経験させている。

表3. 生活テーマ「生活道具」5歳児の週間教育計画(多様な生活道具)

| 生活テーマ | 生活道具 | | テーマ | 多様な生活道具 | | |
|----------------|---|--------------------|-------------|--------------|----------------------|----------|
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・多様な生活道具の種類と働きを知る ・生活道具が変化してきたことを知る ・多様な生活道具を安全に使用しようとする態度を持つ | | | | | |
| 曜日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | |
| 小テーマ | 生活道具を調べてみる | 生活道具の変遷過程を見る | | 生活道具を有効に活用する | 生活道具を安全に使用する | |
| 自由 選択 活動 | 積み木 | ブロックでいろいろな生活道具を作ろう | | おもちゃの修理 | | |
| | 役割遊び | 鏡になってみて | | 私は美容師になれるよ | | |
| | 言語 | 生活道具本づくり | 昔々、大昔に | | | |
| | 数・操作 | 針仕事 | | 昔のものといまのもの | 美術の道具 | |
| | 科学 | 道具を見て見よう | | ラジオの部品を観察する | | |
| | 美術 | | 生活道具がある名画鑑賞 | | | |
| | 音律 | | 鑑賞 森の鍛冶屋 | | 鍋などの調理道具を使って音遊び | |
| 大集 団活 動 | 話し合い | どんな道具を使う？ | 面白い道具を探そう | こんなに変わりました | きれいに掃除しよう | あっ！気をつけて |
| | 童話 童詩 童劇 | 劇：誰がパンを作るか | 詩：必要だ | 童話：雨が降る国の心配事 | 童話：祖父の杖 | 詩：気をつけよう |
| | 音楽 | 歌：めがね | | 歌：昔から今まで | 楽器演奏：鍋などの調理道具を使って音遊び | |
| | 身体 | | おもちゃ | 魚とり | | |
| | ゲーム | 宝物探し | | 私の仲間 | | 安全に配信 |
| | 料理 | | リンゴジュース作り | | クッキー作り | 食卓を作ろう |
| | 美術 | | 手袋づくり | | | |
| | 見学 | 工具店見学 | | | | |
| 外遊び | | | フラフープ遊び | | 木で作ろう | |

表4. 「生活道具」における活動と頻度

| 活動の種類 | 活動頻度 |
|----------|------|
| 身体活動 | 7 |
| 話し合い | 12 |
| ゲーム・ごっこ | 4 |
| 童話・絵本・童詩 | 13 |
| 話作り | 2 |
| 劇遊び | 3 |
| 製作・造形 | 9 |
| 積み木 | 2 |
| 音楽 | 9 |
| 数・操作 | 3 |
| 科学遊び | 6 |
| 探求 | 3 |
| 料理 | 2 |
| 見学 | 2 |

一つのテーマのもとに様々な活動を経験することによって、幼児はそれぞれの活動の意味を理解し、活動を通して身についた知識や技能、思考力などは、日常的問題解決において有効性が高いのではないだろうか。

表5は、「生活道具」で経験する活動のねらいが、韓国の5領域のうちどの領域のねらいに当てはまるかについてサブテーマごとに集計したものである。この表からわかるように、生活道具というテーマの関係から、生活道具の活用、生活道具の仕組みを知る、生活道具の修理、調理、工具店の見学などを通した「自然探求」領域に関係するねらいが多くなっているものの、道具を使った身体活動などを通した「身体・健康」領域、生活道具にかかわる絵本読みや童話、童詩の語り聞かせ、本づくりなどを通した「言語」領域、劇遊び、絵や音楽の鑑賞、歌、音遊びなどを通した「芸術経験」領域、話し合い、役割遊び、共同製作などを通した「社会関係」領域と、4つのサブテーマすべての活動において5領域のねらいが達成される。テーマを設定して行うテーマ中心アプローチ型の教育は、ねらいを総合的に達成する教育方法ということができる。

表5. 活動とねらいの関連領域

| サブテーマ | 身体・健康 | 言語 | 社会関係 | 芸術経験 | 自然探求 |
|-----------------|-------|----|------|------|------|
| 1. 多様な生活道具 | 6 | 11 | 5 | 5 | 18 |
| 2. 生活道具を動かす力 | 3 | 7 | 2 | 6 | 12 |
| 3. 生活道具としてのメディア | 5 | 10 | 4 | 6 | 13 |
| 4. 未来の生活道具 | 2 | 4 | 1 | 5 | 10 |
| 4テーマ合計 | 16 | 32 | 12 | 22 | 53 |

4. 韓国のテーマ中心アプローチ型教育の有効性

これまで述べてきたテーマを設定してテーマごとに多様な活動を経験するテーマ中心アプローチ型教育の有効性について検討してみよう。

韓国の多くの幼稚園で行われているテーマ中心アプローチ型の教育方法は、一つの生活テーマのもとにいくつかのテーマがあり、テーマに関連した多くの活動を経験しながらテーマ

ごとの目標を達成するとともに、5つの領域のねらいを総合的に達成するという教育方法である。この方法は、学習者自身の目的意識・課題意識を出発点とし、その活動を遂行する方法を計画し、その計画を実施し、活動中の進歩と最後の結果を評価するという4つの学習プロセスによって構成されるプロジェクト法を出発点としながら、学習者自身の目的意識・課題意識に基づいてその活動を遂行する方法を計画することよりも、多様な活動の経験や教師の設定した教育目標や年齢ごとの領域別のねらいの達成に重点を置いて作り出された独自の教育方法といえることができる。この方法がプロジェクト型教育のカテゴリーに入るかどうかは議論の分かれるところであるが、多くの有効性を持っているように思われる。表6に示した望ましい幼児教育の条件に照らして韓国のテーマ中心アプローチ型教育の有効性を検証してみよう。

- ・幼児の主体的な活動（1）自由に活動を作り出す主体性～韓国の場合、ほとんどの大集団活動は教師が設定した活動であり、その点では日本の設定保育と同様である。しかしながら、韓国の場合、自由選択活動において幼児は主体的に活動を選択し思いのままに展開するとともに、活動後に自らの活動を自己評価する。この活動は、幼児が自由に活動を作り出す主体性を育てることができる。
- ・幼児の主体的な活動（2）決められた活動のなかで発揮できる主体性～テーマ中心アプローチ型保育の中心的活動である大集団活動において、幼児は話し合いによって活動を進めていく。考えて課題を解決する、工夫する、発見するなどの活動が数多く用意されている。決められた活動のなかで発揮できる主体性を育てるうえで有効な方法である。
- ・遊びを通した教育～遊びの形で展開される活動も少なくないが、どちらかと言えば幼児がしたいと思う活動を楽しんで活動することよりも必要な活動を経験させながらねらいを達成することに重点が置かれている。
- ・ねらいが総合的に達成される～テーマ中心アプローチ型の保育では、一つのテーマのもとで多様な活動を経験してテーマごとの目標を達成するとともに、表5に示した活動とねらいの関連領域からもわかるように5領域のねらいを万遍なく達成していく。
- ・ねらいにかかわる活動をバランスよく経験できる～表4に示したように、「生活道具」の例を見ても、絵本読みと童話・童詩の語り聞かせ、話し合い活動、歌う、楽器の演奏、製作・造形活動、身体活動、ゲームやごっこ、話作り、劇遊び、積み木、数・操作、探求、調理、社会見学などの活動が用意される。11のテーマすべてを通して多様な活動を経験し、5領域のねらいのすべてがバランスよく達成される。また、体を動かす活動は、外遊びの中でほぼ毎日行われている。

表6. 望ましい幼児教育の条件

| 望ましい幼児教育の条件 | 評価 |
|------------------------------------|----|
| 幼児の主体的な活動（1）自由に活動を作り出す主体性が育つ | ○ |
| 幼児の主体的な活動（2）決められた活動のなかで発揮できる主体性が育つ | ◎ |
| 遊びを通した教育である | △ |
| ねらいが総合的に達成される | ◎ |
| 活動の関連性・継続性・発展性がある | ◎ |
| 目的意識、達成感の持てる活動である | ○ |
| 日常生活との関連性がある | ◎ |
| 対話的活動が多い | ◎ |
| 発達や興味の個人差に対応できる | ○ |

・活動の関連性・継続性・発展性～テーマ中心アプローチ型の教育では、一つの教育テーマにかかわる活動が約1カ月をかけて展開され、その中で幼児が経験する活動はすべて関連性を持っている。さらに、活動を重ねていく中で、設定されるねらいのレベルが少しずつ高いものとなる。

・日常生活との関連性～11の生活テーマのうち幼稚園と友達、私と家族、住んでいるところ、健康と安全、動植物と自然、生活道具、私の国、交通機関、季節、環境と生活などは日常生活と密接に結びついたテーマであり、それぞれのテーマを通して身についた知識・技能、思考力・判断力・表現力、心情・態度は日常生活に生かすことができる。活動の関連性・継続性・発展性に富んだ活動である。

・目的意識、達成感の持てる活動～大集団活動の中には、こんなことを知りたい、こんなものを作りたい、こんなことができるようになりたいなど、幼児自身が目的を持って取り組む活動が多く含まれている。また、それぞれのテーマを通して身についた知識・技能、思考力・判断力・表現力、心情・態度は日常生活に生かすことを通して、活動することの意味と意義を感じ取っていく。

・対話的活動～多くの活動の中で、どのような活動内容にするか、課題を解決するにはどうしたらよいかなどについて幼児同士の話し合いが行われる。「生活道具」の場合には、12回の話し合いが計画されている。

・発達や興味の個人差に対応した活動～大集団活動の多くはクラス全体で一つの活動に取り組むものであり、発達や興味の個人差に対応するものではない。しかしながら、幼児がそれぞれの興味に応じて活動の場を選択し自分なりに活動を展開していく自由選択活動が用意されており、発達や興味の個人差に対応した活動が保証されている。

このように、テーマを設定して大集団活動、自由選択活動、外遊びを組み合わせる展開される韓国のテーマ中心アプローチ型幼稚園教育は、決められた活動のなかで発揮できる主体

性が育つ、ねらいが総合的に達成される、活動の関連性・継続性・発展性がある、対話的な活動が多いなどの点で有効性が高く、それ以外のほとんどの条件でも有効性が認められる教育方法である。

この研究に引き続き、11の生活テーマすべてを経験した場合の幼児の育ちについて、2018年4月に改訂される日本の幼稚園教育要領に示されている「幼稚園教育終了までに育てたい重要10項目」に照らしながら検証していきたい。

引用文献

- 平沢茂（編著）2014 教育の方法と技術（教職課程シリーズ）第2章「教育方法の理論と歴史」図書文化
- 中西さやか 2011 ドイツの保育システムに関する研究：システムの位置づけに着目して 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部, 教育人間科学関連領域60号 267-273.
- 渡邊眞依子 2006 現代ドイツにおけるプロジェクト法の実践構造に関する一考察―「教科授業の中でのプロジェクト学習（Projektlernen im Fachunterricht）の取組に焦点を当てて 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 第55号 185-192.
- 渡邊眞依子 2007 ドイツにおけるプロジェクト週間（Projektwoche）に関する一考察 広島大学大学院教育学研究科紀要 第三部 第56号 143-151.
- 渡邊眞依子 2016 ドイツにおけるプロジェクト法の実践構造に関する研究 日本保育学会第69回大会発表要旨集 p411.
- 本山ひふみ 2016 幼児期の学びに関する日本と北欧の比較研究 愛知淑徳大学論集―福祉貢献学部篇 第6号 77-87.
- 角尾和子 2008 プロジェクト型保育の実践研究―協働的学びを実現するために― 北大路書房
- 韓国教育省 2012 幼稚園教育課程解説
- 韓国教育省 2012 幼稚園教育課程指導書 全36巻
- 文部科学省 2017 改訂幼稚園教育要領（案）文部科学省ホームページ

Project type education as a national standard of Korea's kindergarten

Toshiaki TANAKA ^{*1}, Minjung KANG ^{*2}, Masae SADAKATA ^{*3},
Naoko MATSUI ^{*4}

^{*1}Department of Childhood Care and Education, Kyushu Woman's Junior College,
1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyushu-shi, 807-8586, Japan

^{*2}Mokwon University, 88, Doanbuk-ro, Seo-gu, Daejeon, 302-729, Korea

^{*3}Graduate Student of Fukuoka University of Education,
1-1 Akama-bunkyo-machi, Munakata-shi, 811-4192, Japan

^{*4}Department of Human Science,
2-1Ichinomiya-Gakuen-machi, Shimonoseki-shi, 807-0077, Japan

Abstract

Project type education is a national standard of kindergarten education. The current study made explanation about the content and method and made inspection the effectiveness and the appropriation of this education. In Korea's kindergarten there are 11 life themes, kindergarten and friends, my family, place where I live, health and safety, animals plants and nature, instruments of life, my country, countries of the world (4 and 5 year) , transportation facilities, four seasons, environment. Based on the standard model large group activities, free-choice activities and outdoor plays are developed under teacher's own direction. In this study we introduce contents and method of this education centering on the theme `instruments of life`. Furthermore we verified the validity of this education fitting to the necessary conditions such as education with play, achieve the educational goal comprehensively and so on. As a result of this verification it became clear that project type education of Korea using large group activities, free-choice activities and outdoor plays in combination is a well-balanced method which has a continuity and development. Therefore education of this type is a reasonable and effective method of education.